



認定看護師のあいさつ

～新型コロナウイルス感染症を正しく恐れ、みんなで乗り越えよう！～



2013年に感染管理認定看護師を取得し、8年目を迎えた今年は新型コロナウイルス感染症を経験し対策の整備など多忙な年でした。中国湖北省で発見され約1年が経ちウイルスの特徴が少しずつ見えてきました。感染管理の場面からガイドラインや専門家の意見を踏まえ以下のポイントと対策を述べます。

- ①サージカルマスクを着用してもコロナウイルスの殆どは通過する。(注意)
例：ウイルスの大きさがピンポン玉だとしたらマスクの網目は畳2畳よりも大きく、ウイルスは簡単に通り抜ける。
- ②近距離で飛沫を浴びると感染のリスクは高まる。ソーシャルディスタンス(社会的距離2m)の確保は重要である。
- ③マスクは自分の咳・くしゃみ・会話など口から唾液(飛沫)を他者にまき散らさないために使用するもの(エチケット)である。また、もう一つの利点は気道に高温・多湿の環境を作ることでウイルスが体内に侵入しにくい状態を作ることである。
- ④予防には、3密(密集・密閉・密接)を避け、手指の消毒又は洗浄を必要な場面で行うことが重要である。(必要な場面とは…何かに触れた後！)
- ⑤感染症は特に手から口、鼻、目の粘膜を触って感染する。多くの人が触るドアノブ、手すり、スイッチ、レバーなどを定期的に消毒することが重要である。
- ⑥規則正しい生活を送り、十分な睡眠と栄養をバランスよく摂取することが、免疫力を高め、感染症に負けない体を保つことに繋がる。
- ⑦日本では約半数が無症状と言われている。そのため、熱だけで感染者を判別できないので流行地域への渡航や接触歴がないかを確認し、慎重に対応する必要がある。
- ⑧感染者の中で98%は軽症で残り2%が重症である。特に持病のある方や高齢者の重症化例が多いため、ハイリスクな方と同居する家族の協力も重要である。

以上のポイントを押さえると感染が流行し拡大警報や注意地域でない限りは旅行やスポーツなどを十分に楽しむことが可能です。ポイントを押さえ、不必要に怖がらず見えない敵と正しく向き合っていきましょう！

小林市立病院 感染管理認定看護師 田中 久雄

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



産婦人科紹介

～24時間 365日 妊婦さんを見守り中～

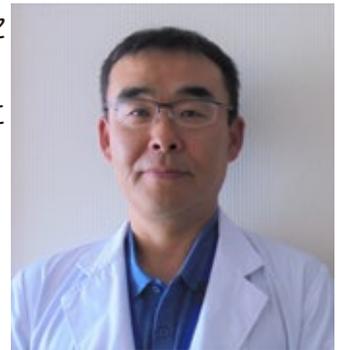
お陰様で小林市立病院産婦人科の分娩再開から約2年がたちます。医師は2年前から24時間対応していますが、今年度から助産師が11名となり必ず助産師が院内勤務することになりました。

昭和には西諸地区に10軒を超える分娩施設がありましたが、平成になり住民意識の変化もあって減り続け、とうとう3年前に無くなってしまいました。翌年復活した当院は西諸地区最後の分娩施設になると思っています。その意味でも当院を受診して下さる方々にはしっかりとした産婦人科診療を提供させていただきたいと看護師・助産師ともども気を引き締めてがんばっております。

当院の特徴は「検査が早くて正確」なところです。例えば女性の腹痛だと妊娠もありえますが、胃腸炎や虫垂炎の可能性もあり夜間休日でも血液検査・CT検査なども迅速に行え、産婦人科医師以外にも当直をしている医師がいるため「診断」がとても速く行えます。治療を全部当院で行うわけではありませんが、スムーズに宮崎大学附属病院や都城医療センターに診療依頼することができます。

また、西諸の将来を担う大切な子供たちの児童虐待予防を目的とした当院と内村病院、および小林市・えびの市・高原町の保健福祉の担当者と「西諸周産期ソーシャルカンファレンス」を開催しています。妊娠中・分娩後も経済的・精神的・家族的に困っている妊婦さんを継続的に支援し地域で子育てをしていく取り組みをしています。

今後とも小林市立病院産婦人科の診療にご理解ご協力をお願いいたします。



産婦人科科長 吉永 浩介

薬剤室紹介

寒さが日ごとに厳しくなってきましたが、皆様お元気ですか。今日は薬剤室の紹介をさせていただきます。スタッフは薬剤師4名、薬剤業務補助看護師1名、事務職員2名です。薬剤に関する業務を院内の多職種と連携を取り合いながら、薬剤室スタッフ7名で、時間に追われながらも頑張っています。

薬剤業務補助看護師と事務職員は、薬品の発注・検収・棚入れ、見積み、済み処方箋の整理と集計、薬剤マスター入力、注射カートや容器の掃除、処方箋に記載のある薬の取り揃え、処方薬袋書き、薬剤の運搬、返品処方箋の照合、常備薬剤の管理などに携わり、情報を薬剤室内で共有しながら業務を進めています。

薬剤師は、入職2年目が1名と今年度入職が2名のフレッシュな中に古株の私です。3人の若者から刺激されながらも彼らを指導しています。今年度は宮崎大学医学部附属病院の薬剤師の先生方が月に2回程度、業務改善や新人薬剤師の指導の目的で勤務して頂いております。業務改善ができた部分と、課題になっている部分とあります。

夏から秋にかけてテレビドラマ『アンサングシンデレラ』がありました。主演の石原さとみさんが病院薬剤師として奮闘するドラマです。患者さんに寄り添う気持ちが強く描かれてて、患者さんにとって記憶に残る薬剤師と言えるでしょう。日常業務があるので難しいことですが、そうでありたいと思いました。

ドラマのようにはいきませんが、我々病院薬剤師が少しでも患者さんを健康に又幸せにできますように日々努力していこうと思います。



薬剤室長 房安 利朗

看護部紹介

今年も残すところ1か月となりました。

スタッフ一同、師走のあわただしい気配を感じながらも、一人でも多くの患者さんに最良の看護が提供できるよう努力しております。

今回は外来部門の透析室を紹介します。

当病院の透析室は、泌尿器科医師2名・臨床工学技士3名・看護師2名の体制で週3回（月・水・金）透析を行っています。透析ベッド数は15床で1日15～17名の方が透析をされています。

人工透析を受けられている患者さんは、長い間、人工透析を必要とします。人工透析と上手に付き合っていくためにも、体重管理・食事・飲水の管理など、普段の生活の中で気を付けなければならないことがあります。

そういった事を適切に管理していただくために、私たちは、患者さんとの会話を通して、普段の生活を送りながら透析と上手に付き合っていく方法をアドバイスし、時には厳しく指導を行っています。

また、糖尿病や動脈硬化のある方は、足の血行不良・神経障害などのトラブルが起こりやすく、小さな傷など気が付かないことがあります。そこで、足の変化を早期に発見するために、月1回フットケア（足の観察・お手入れ）を行っています。

～フットケアの方法～

- ・毎日足を観察しましょう
- ・足の清潔を保ちましょう
- ・爪は切り過ぎないようにしましょう
- ・自分の足に合った靴をはきましょう
- ・素足を避け、靴下を履いて、傷から足を守りましょう
- ・やけどに注意しましょう
- ・自己処置は大変危険です。もし傷を作ってしまったら専門の医師に相談しましょう

今後も、患者さんが安心・安全に人工透析治療が受けられるようスタッフ一同心がけてまいります。



外来主任看護師 下菌 恵里子

検査室紹介



臨床検査室には5名の臨床検査技師が勤務しており、365日・24時間オンコール体制でいつでも必要な検査ができる体制を整えています。

臨床検査室って何をするとところだろう

臨床検査とは物理化学的な手段を用いて身体の状態を調べることであり、医師が病気の検出・診断・治療の評価や副作用の監視、予後の判定や検診に使う検査を行う部門です。

臨床検査の種類

検体検査（体から取り出した血液などの材料で行う検査）と生体検査（体に直接触れて行う検査、心電図や超音波）があります。



スタッフからひとこと

今年5月より入職することになりました。初心を忘れず日々知識や技術の向上に努め、チームワークを大切に業務に励んでいきます。
新入職員 野口美香

新型コロナウイルスの発生に伴い、検体検査時の感染に気をつけながらも試行錯誤しながらコロナウイルスの定性検査に取り組んでいます。新型コロナの終息の見えない現在、今年のインフルエンザ流行に備え、従来とは異なる検査体制づくりを保健所や関連医療施設と連携して早急に構築すべく日々業務に専念しております。

臨床検査室長 中屋敷 一美

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

スタッフのひとこと

師走に入り霧島おろしを肌で感じるようになりました。寒さも厳しくなり、朝布団から出るのが億劫な毎日です。

今年は世界が新型コロナウイルス感染拡大の影響により、思うように行動できない日々が続きました。2021年はコロナが終息に向かい、東京オリンピックが開催されることを願っております。

地域医療連携室 医師事務作業補助者 石橋 加奈枝

